瞳孔間距離測定(メジャーによる方法)まとめ

遠見 interpupillary distance

＊(　)の中はメジャーを下に置いた場合。
＊＜　＞の中は角膜縁で測定した場合。
＊[　]の中は小児や遠方が見にくい場合。

自分の方法を決め、不要な語句は消すこと。

斜視がある？ NO / YES

小児か？ NO / YES

遠方をしっかり見ることができるか？ YES / NO

斜視がなくても小児の場合はこのルートの方が確実だと思うが欠点もあり、下記に。

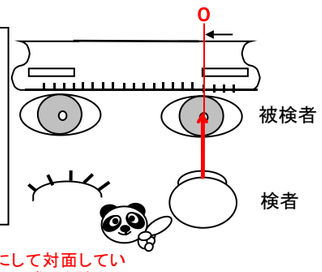
遠方をしっかり見ることができる場合

通常5mの固視目標

対面し、検者の頭越しに被検者に∞を見させる

被検者の上(下)眼瞼上にメジャーを検者の指と被検者の顔で支持して当てる

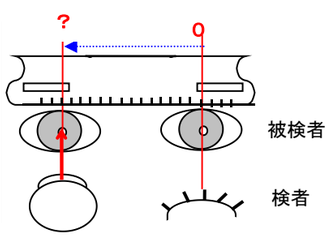
検者は左(右)眼を閉じ、メジャーの0目盛りを右(左)眼で被検者の左(右)眼の瞳孔中央〈耳側角膜縁〉に合わせる



瞳孔中央で測定すると誤差は少ないが、少し難しい。
瞳孔縁でする方法もあるが、瞳孔不同の場合は困る。

片眼にして対面している眼の目盛りを読むということは、視差をつけないためだよ！検者は片眼の閉瞼ができない場合、自分の手で隠すしかない。

検者は次に右(左)眼を閉じ、左(右)眼で被検者の右(左)眼の瞳孔中央〈鼻側角膜縁〉の目盛りを読む

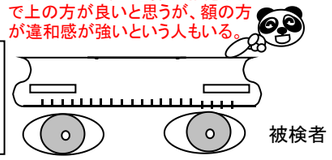


遠方をしっかり見ることができない場合

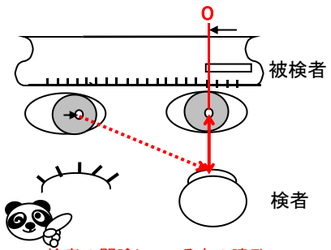
検者は被検者の正面に位置する

被検者の上(下)眼瞼上にメジャーを検者の指と被検者の顔で支持して当てる

パンダは下に置くと鼻が邪魔なので上の方が良いと思うが、額の方が違和感が強いという人もいる。



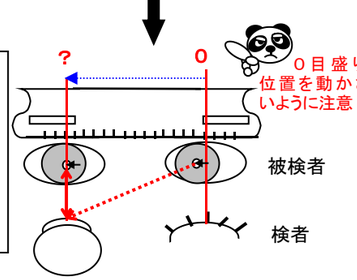
検者は左(右)眼を閉じ、被検者に検者の開いている方の眼の瞳孔中央を見るように指示し、メジャーの0目盛りを被検者の瞳孔中央〈耳側角膜縁〉に合わせる



厳密には互いの回旋点(瞳孔)間距離などによる誤差が出る。特に小児。小児に適応と習ったが？

検者の開瞼している方の瞳孔を見るように検者は自分の眼を指で示してしっかり見るように促すと良い。

検者は次に右(左)眼を閉じ、被検者に検者の開いている方の眼の瞳孔中央を見るように指示し、被検者の右(左)眼の瞳孔中央〈鼻側角膜縁〉の目盛りを読む



0目盛りの位置を動かさないように注意！

遠方をしっかり見ることができる場合

検者は被検者の正面に位置する

被検者の上(下)眼瞼上にメジャーを検者の指と被検者の顔で支持して当てる

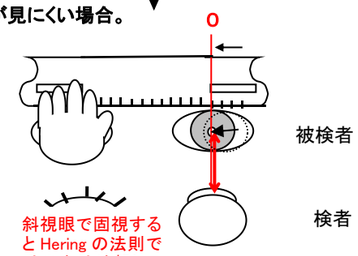
被検者の右(左)眼を検者の手で遮閉し、検者は左(右)眼を閉じる

検者がウィンクできないのであれば、被検者の手で自分の眼を隠してもらい、検者は自分の眼を手で隠せば良い。

＊[　]の中は小児や遠方が見にくい場合。

被検者に遠方[検者の開いている方の眼の瞳孔中央]を見るように指示し、固視が確認できたらメジャーの0目盛りを被検者の瞳孔中央〈耳側角膜縁〉に合わせる

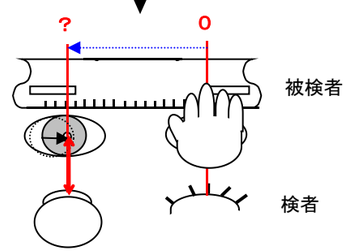
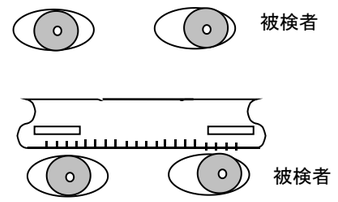
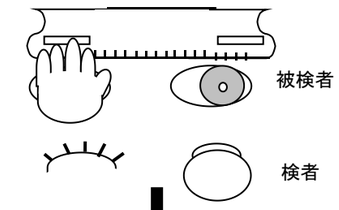
[　]の方法は互いの回旋点(瞳孔)間距離などによる誤差が出る。特に小児。それと弱視だとカバーを嫌がるかも。



斜視眼で固視すると Hering の法則で手の中は外転しているはず。

次に被検者の左(右)眼を検者の手で遮閉し、検者は右(左)眼を閉じ、先と同様に被検者に遠方[検者の開いている方の眼の瞳孔中央]を見るように指示し、固視が確認できたら被検者の右(左)眼の瞳孔中央〈鼻側角膜縁〉の目盛りを読む

検者は遮閉眼との対面眼を交互に閉瞼しつつ左右眼の遮閉を何回か繰り返して、位置を確認すること。



例)左眼　外斜視